

東京言語研究所

2014年度第3回公開講座

東京言語研究所では、広い視野からことばを考えることを目的として、年3回公開講座を開催しています。毎回、ことばとかかわりを持つさまざまな分野の第一線で活躍する方々を講師としてお迎えします。

今回は、下記の要領で2014年度第3回公開講座を開催いたします。奮ってご参加ください。

〈演題〉実験音韻論への招待 ～理論言語学と実験言語学の対話～

〈講師〉川原 繁人 氏(慶應義塾大学言語文化研究所専任講師)

〈日時〉2015年2月21日(土) 14:00～17:00

〈会場〉東京言語研究所 (新宿区西新宿6-24-1 西新宿三井ビル13階)

〈参加費〉一般 1,500円 学生 1,000円(当日学生証提示)

(*2014年度理論言語学講座受講生は500円)

※ 参加費は当日現金でお支払いください。

〈申込み〉ホームページ申込みフォームもしくはFAXで下記へご連絡下さい。定数:60名

- ① 公開講座受講希望
- ② 氏名
- ③ フリガナ
- ④ 性別
- ⑤ 住所
- ⑥ 電話番号
- ⑦ Eメールアドレス
- ⑧ 区分 (2014年度理論言語学講座受講生・一般学生)
- ⑨ 所属 (大学生・大学院生・教員・会社員・その他)

(上記情報は東京言語研究所事業以外には一切使用いたしません。)

〈講師紹介〉

マサチューセッツ大学言語学博士(2007年)。ジョージア大学、ラトガーズ大学 Assistant Professor を経て、現在慶應義塾大学言語文化研究所専任講師。

研究の専門は音声学、音韻論、及びそのインターフェイス。また最近は、声を失ってしまう病気の患者の声を事前に録音し、パソコンから再生させるマイボイスプロジェクトの研究支援を行なっている。主要著書:[1] Kawahara, Shigeto (2006) A faithfulness ranking projected from a perceptibility scale: The case of [+voice] in Japanese. *Language* 82(3): 536-574. [2] Kawahara, Shigeto (2011) Japanese loanword devoicing revisited: A rating study. *Natural Language and Linguistic Theory* 29(3): 705-723. [3] Kawahara, Shigeto (2015) Can we use rendaku for phonological argumentation? *Linguistic Vanguard*. [4] 川原繁人他 (2015) マイボイス:言語学が失われる声を救うために。音韻研究 18. その他多数の国際雑誌に論文を掲載。

問合せ先 公益財団法人 ラボ国際交流センター 東京言語研究所

〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-24-1 西新宿三井ビル16階

TEL:03-5324-3420

FAX:03-5324-3427 ホームページ:<http://www.tokyo-gengo.gr.jp/>

【講義要旨】

本講演では、実験音韻論（＝実験を取り入れた音韻研究）が言語理論に対してどのような貢献ができるのか、また理論は実験に対してどんな示唆を与えることができるのかを考えていきたいと思います。

これまで理論言語学で使われてきたデータの大半は、論文作者自身の直感によるものが多く、このデータ収集方法には、1960年代から批判がなされてきました。言語理論が「砂上の楼閣」にならないためにも、理論言語学の「データの質」という問題を考え直す必要があると思われ、そのために言語学者はどのようなことが出来るのか提示します。

議論は日本語の音韻パターンを中心に進めますが、他言語に関する理論・実験や統語論における同じような問題についても触れていきたいと思います。具体的には以下のような問題を参加者のみなさんと考えながら議論を進めたいと思います。

<具体的な議題>

- 直感に基づく理論構築の是非。
- 音声学・心理学からの批判。
- 日本語に音韻パターンはそもそも存在するのか？
- 連濁は音韻理論構築に使えるのか？
- どんな実験ができるのか・すべきなのか？
- 理論が実験に教えてくれること。理論と実験の対話を目指して。
- マイボイス：言語学が社会に貢献できること。



『ことばの宇宙への旅立ち—10代からの言語学』大津由紀雄編 好評発売中

第一線で活躍する言語学者自身の研究の紹介や言語学を志すきっかけなどのエピソードが盛り込まれています。発行：東京言語研究所／発売：ひつじ書房